

令和4年度 愛媛森林管理署の重点施策
～地域の林業成長産業化に向けた取組～

令和4年4月
愛媛森林管理署

1 伐採・造林の一貫作業と複数年契約によるトータルコスト削減

- 多くの森林が収穫期を迎える中で、伐採・造林の一貫作業、複数年契約、生産・造林との複数作業組合せを導入し、伐採・造林のトータルコスト削減を推進。
- 下刈りの省力化に取り組み、作業期間を12月まで拡大し(通常6月～8月)、冬期作業が可能となるよう設定(全箇所89ha)。また、下刈り回数の削減(通常5年で5回→2～3回)に努める。更新箇所は低密度植栽を推進し(新植25haのうち14ha:2,000本/ha、11ha:2,100本/ha、改植と補植は2,000本/ha)、引き続き列状間伐を推進。
- 通年植栽が可能で一貫作業に欠かせないコンテナ苗を7万本導入するとともに、令和4年度～6年度のコンテナ苗の調達見通しを公表。

■一貫作業システム

<一貫作業システムのポイント>

- 1 伐採・搬出から植栽・下刈りまでの全体作業工程の最適化
- 2 伐採後、高性能林業機械(プロセッサ、タワーヤーダ等)を活用し、集材作業中に枝条等の除去を実施。
- 3 フォワーダや架線の帰り荷を活用し苗木を運搬。時期を選ばず植栽が可能なコンテナ苗を活用し、伐採後時間をおかずに植付を完了。一括発注により機械の搬送費や間接費の削減も可能。

■複数年契約による森林整備

<複数年契約のポイント>

- 1 総合評価落札方式による事業者の決定(入札価格+技術力)
- 2 林業事業者にとって、複数年に渡って安定した事業量を確保でき、経営・雇用の安定や機械導入の環境整備につながる。
- 3 路網開設、集材方法など事業者の技術・人員・設備等を活用し、創意工夫を活かした複数年に渡る効率的な事業実施が可能。

■令和4年度 複数作業種組合せ予定地区

| 所在地 | 国有林名 | 予定面積 (ha) | 備考 |
|-------|------|-----------|------|
| 久万高原町 | 狼ヶ城山 | 10.50 | 一括発注 |
| 久万高原町 | 狼ヶ城山 | 3.89 | 一括発注 |
| 松野町 | 目黒山 | 5.27 | 一括発注 |
| 松野町 | 目黒山 | 4.84 | 一括発注 |
| 松野町 | 目黒山 | 0.92 | 一括発注 |

■愛媛森林管理署のコンテナ苗の導入本数

単位: 百本

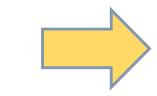
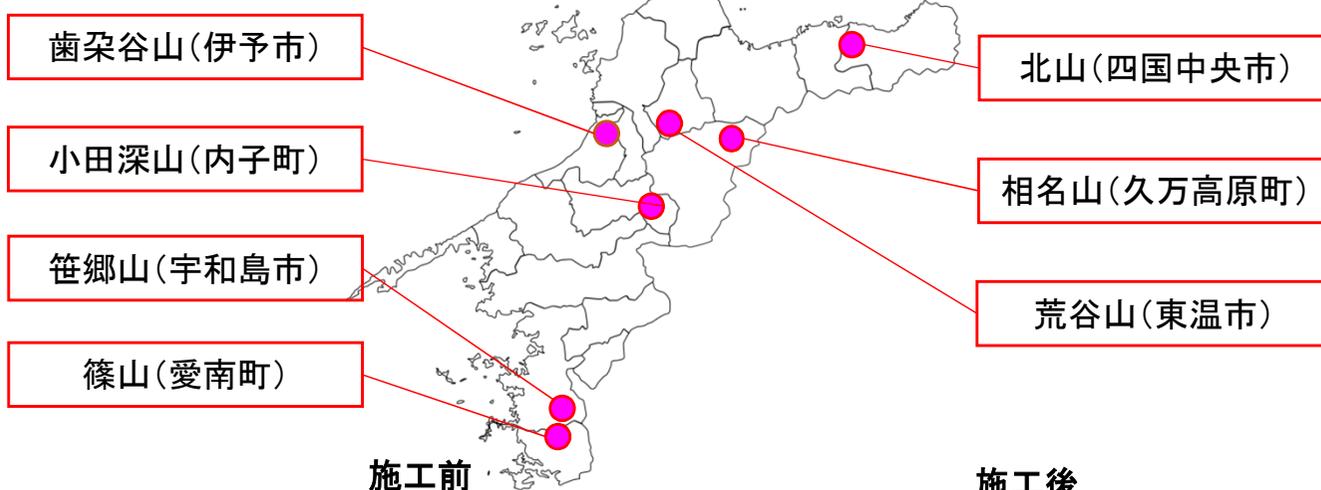
| 区分 | R元 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| 本数計 | 787 | 566 | 737 | 701 | 396 | 80 |
| スギ外 | 605 | 172 | 635 | 587 | 396 | 0 |
| ヒノキ | 182 | 394 | 102 | 114 | 0 | 80 |

※ R4～R6年度は見通し

2 地域の安全・安心を守る山地防災力の強化

- 近年頻発する豪雨・地震等による山地災害に対しては、関係機関が連携し、迅速かつ的確な初動対応を取ることが重要。
- 愛媛森林管理署は、松野町、西条市、久万高原町の3市町と災害対応措置に関する協定を締結。また、ドローンを活用した災害時情報収集訓練を実施。
- 地域の安全・安心を守る治山事業を7箇所を実施(R3年度8箇所3.6億円→R4年度7箇所2.3億円)。また、治山事業として森林の本数調整伐(保育間伐)を実施。
- 山地防災初動時における情報共有の円滑化を目指し、災害対応について関係機関との連携方法の確認等を行う四国山地災害初動対応等強化会議や県市町、消防、気象台等が構成員となっている大規模氾濫に関する減災対策協議会への参画、河川を所管する国土交通省と連携し流域全体で水害防止を検討する流域治水の取組(肱川流域、重信流域)など、関係機関と連携し山地防災力の強化を進める。

令和4年度 愛媛県内の治山事業・山地災害復旧事業実施予定地区



荒谷山国有林(東温市)



歯朶谷山国有林(伊予市)



3 民有林と国有林の連携による国産材の安定供給

- 民有林と国有林の連携、立木販売の強化等により、国有林材7.6万m³(製品(丸太)換算)を安定供給(R3年度実績6.0万m³(製品4.3万m³、立木1.7万m³)→R4年度7.6万m³(製品4.7万m³、立木2.9万m³))。
- 森林管理局と需要者の協定締結による国有林材(製品・立木)の安定供給システム販売を推進(R3年度2.1万m³→R4年度2.6万m³)。

■ 愛媛森林管理署の国有林材の供給量 (千m³)

| | H30 | R元 | R2 | R3 | R4 |
|--------|------|------|------|------|------|
| 供給総量 | 60.5 | 59.5 | 60.3 | 60.3 | 76.2 |
| 製品販売 | 56.7 | 41.5 | 40.5 | 42.7 | 47.0 |
| システム販売 | 16.5 | 23.7 | 22.1 | 21.2 | 25.5 |
| 立木販売 | 5.5 | 4.6 | 5.1 | 16.5 | 29.2 |

※H30～R3年度は実績値。立木の製品(丸太)換算率は70%

愛媛森林管理署事務室に設置したCLTパネル(ヒノキ材)

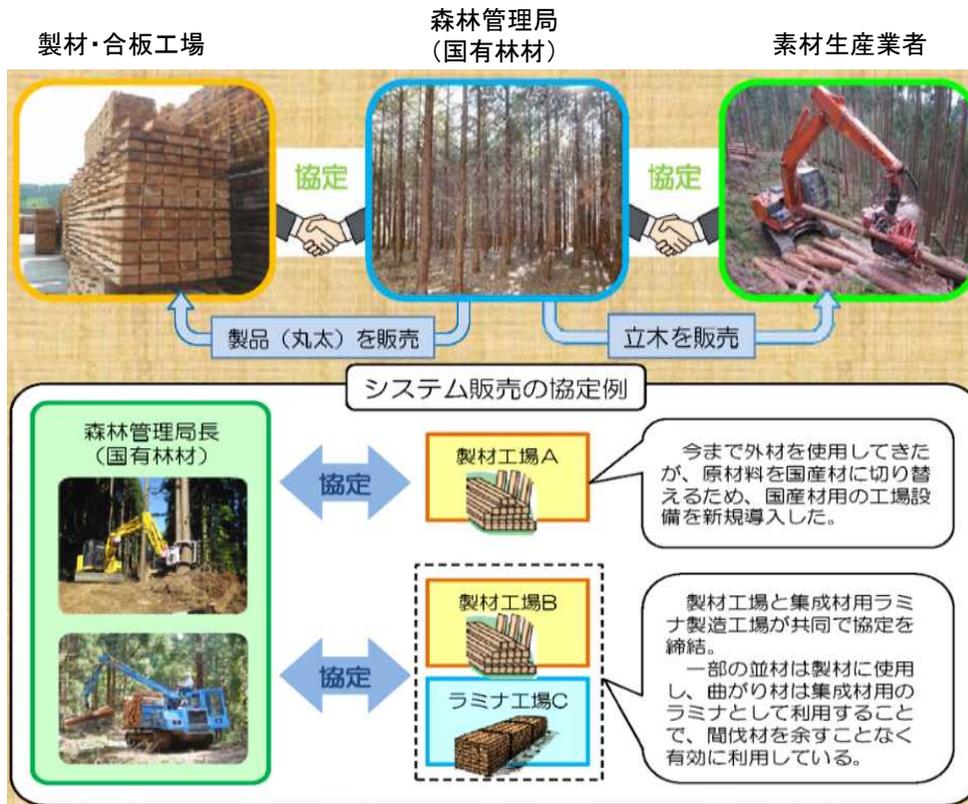


素材生産現場



黒滝山国有林(久万高原町)

■ 国有林材の安定供給システム販売の仕組み



※システム販売の対象は、製品(丸太)と立木。協定の相手方は、製材工場、木材加工業者、原木市場、素材生産業者等。

※立木のシステム販売は、複数年(3年以上)の協定、搬出期間は売買契約から原則3年以内。

4 地域の森林・林業を担う人材育成

- 四国森林管理局では、森林・林業に関する基礎知識や理解を深めるため、市町村林業担当者向けの「市町村林業担当者実務研修」を開催。愛媛森林管理署においても、森林管理や林業技術の知見を高めるため、森林・林業の実務経験の少ない市町村職員を対象に、森林官の日常業務への帯同による出前講座を実施。
- 四国森林管理局と愛媛大学は、森林・林業の再生を担う人材育成を図るため、平成26年に連携協定を締結。愛媛森林管理署においても、更なる連携強化のため、愛媛大学農学部を学生を実習生として受け入れ、就業体験実習を行う。
- 南予森林管理推進センター(構成員:宇和島市、松野町、鬼北町、南予森林組合)は、南予地域の林業担い手の育成を図るため、「南予森林アカデミー」を令和4年4月に鬼北町に設立。愛媛森林管理署は、実習フィールドとして国有林を利用してもらうなど南予森林アカデミーと連携した人材育成に取り組む。

■ 架線系搬出作業システム現地検討会



ヲリハタリ国有林(鬼北町)

架線技術の継承を目的とし、事業者、民有林関係者が参加。集材作業の実演を行い、索張りの仕組みの理解を深める。

■ 森林官による市町村の林務担当者への出前講座



森林管理や林業技術についての知見を高めることを目的に、森林・林業の実務経験の少ない若手の市町村職員を対象に実施。(久万高原町内)

■ 南予森林アカデミーとの連携

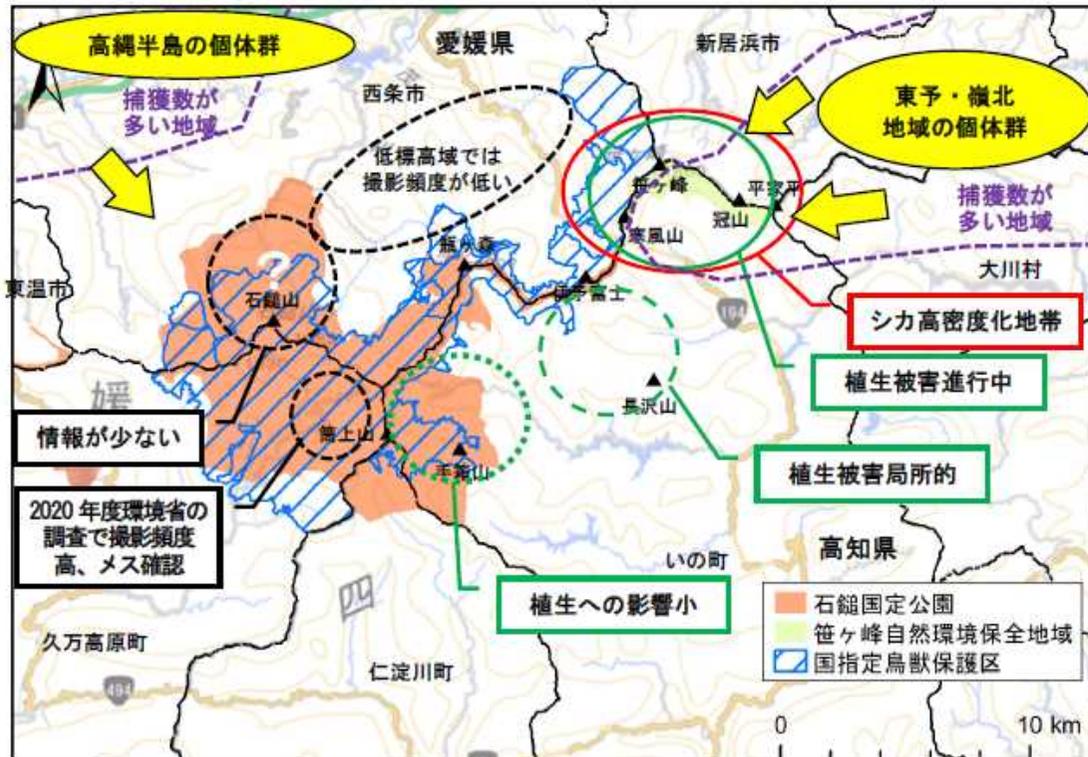


5 地域との連携によるニホンジカ被害対策の推進

- 西日本最高峰で山岳信仰の対象である石鎚山(標高1,982m)、瓶ヶ森、寒風山、笹ヶ峰などからなる石鎚山系は、石鎚国定公園、石鎚山系森林生態系保護地域、緑の回廊などに指定され、原始的な天然林を主体とする四国の代表的な森林生態系である。
- 近年、石鎚山系では、周辺地域からシカが侵入し、シカによる食害被害や下層植生の衰退が確認されている。こうした状況を改善するため、愛媛森林管理署は、愛媛県や高知県、地元の市町・民間団体と連携し、シカ被害を防止する具体的な対策を検討・実施する。また、委託事業によりシカ捕獲を実施する。
- また、シカ被害が拡大しつつある南予地域においては、委託事業や民間企業との協定に基づく捕獲により、シカ被害対策を行う。

■石鎚山系におけるシカの被害状況

(「石鎚山系における生物多様性保全計画」(2022.4月、高知県)より引用)



■「ついでの捕獲」の取組

国有林へ日常的に入林している業者によるついでの捕獲の取組(国有林と電力会社との捕獲協定は全国初)。



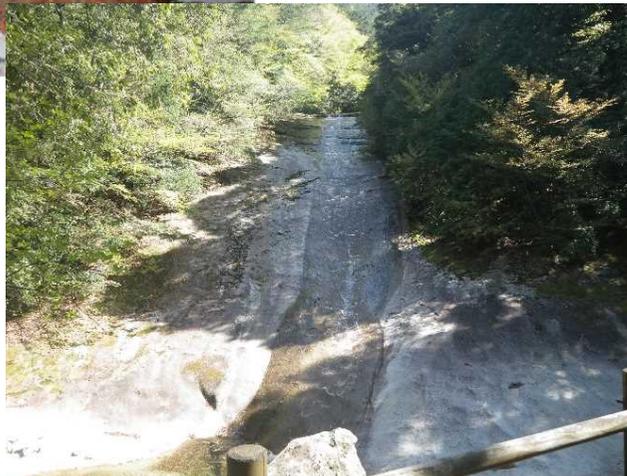
猿磨番畑小僧都山国有林(愛南町)

6 国有林と国立公園との連携

- 農林水産省と環境省は、国有林と国立公園が重なる地域において、優れた自然の保護と利用の両立を世界水準で目指すことに合意。
- 四国では、連携の対象地として、足摺・宇和海国立公園の滑床自然休養林が選定された。
- 令和3年度、愛媛森林管理署と環境省(中国四国地方環境事務所)は、会合及び合同の現地パトロールを行い、遊歩道や登山道の巡視情報等を共有し、連携していくことを確認。
- 令和4年度、愛媛森林管理署は、滑床自然休養林のドローン画像データを環境省へ提供し、環境省がSNS等による情報発信を行う予定。



紅葉する滑床溪谷



雪輪の滝(高さ80m)



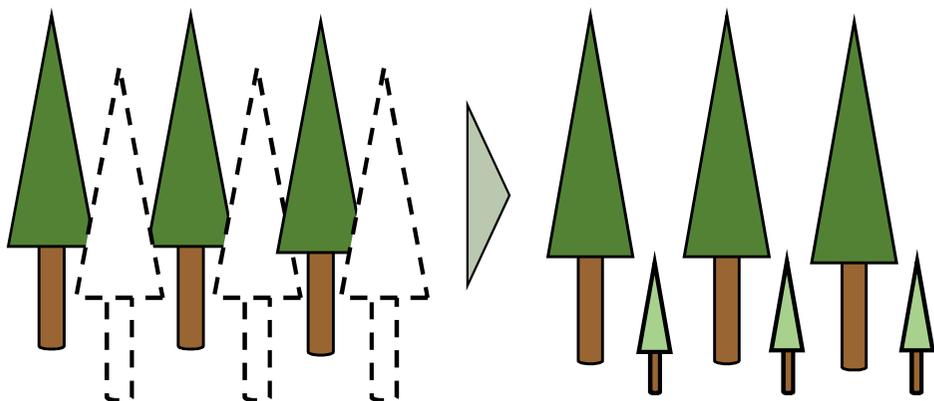
環境省と合同で滑床溪谷をパトロール

7 点状複層林^(※)の施業方法に係る現地検討会

- 点状複層林は、四国森林管理局管内に約1,200haあり、そのうち愛媛森林管理署管内に約200haが存在。上木の間伐は下木の損傷を伴うため、これまで間伐等の保育作業は十分に行われてこなかったが、下木を植栽してから30年近くが経過しており、上木の間伐と下木の光環境改善が必要な段階。
- 令和3年度には嶺北森林管理署石原山国有林の点状複層林において、上木間伐後の下木の損傷割合や光環境の変化を調査。上木と下木の本数比率や林齢等は区々であり、今後の点状複層林の施業方法を検討するためには、多くの事例を収集する必要があることから、令和4年度には、愛媛森林管理署蔭地山国有林(西条市)の点状複層林において、令和3年度と同様の調査を実施する。
- 愛媛県内の民有林でも点状複層林は多く存在していることから、国有林で得た知見を県内民有林へ共有するため、現地検討会を開催する。

(※)点状複層林とは？

スギ・ヒノキ単層林を抜き伐りし、その跡地に下木を植栽した上下2段の複層林のこと。



蔭地山国有林1030林班い1小班の現況
(面積:3.21ha、上木:66年生、下木27年生)



上木が多く、混み合っており、間伐を行うことが必要。
上木の胸高直径:30~40cm
上木の樹高:約20m



照度不足のため下木の成長は低位。
下木の胸高直径:約8cm
下木の樹高:約2m